

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会
「平成19年度 第3回 議事録」

日時	平成19年9月10日(月) 10:00~17:00	場所	地盤工学会3階会議室		
委員長	後藤 聡	幹事	豊田 浩史		
幹事	川崎 了	委員(WG1)	杉井 俊夫		
委員(WG1)	細野 高康	委員(WG2)	川口 正人 (代理:野田 典広)		
委員(WG2)	太田 岳洋	委員(WG3)	渡部 要一		
委員(WG3)	山本 肇	委員(WG4)	仙頭 紀明		
委員(WG4)	畠山 正則	委員(WG4)	上原 真一		
委員(WG5)	大窪 克己 (代理:横田 聖哉)	委員(WG6)	平井 貴雄		
委員(WG7)	三谷 泰浩	委員(WG8)	石川 達也		

出席 : 豊田浩史
代理出席 : 杉井俊夫
議事録担当: 豊田浩史 幹事

配布資料:

- 番号なし:平成19年度第3回室内試験規格・基準委員会議題書
- 資料19-3-1:平成19年度第2回室内試験規格・基準委員会議事録
- 資料19-3-2-1:ベンダーエレメント試験方法基準化検討WG 設立趣意書
- 資料19-3-2-2(1):基準部委員会運営細則
- 資料19-3-2-2(2):規格・基準に関する細則
- 資料19-3-3-1(1):平成19年度第1回WG1物理特性(土と岩)議事録
- 資料19-3-3-1(2):WG1 目次案
- 資料19-3-3-1(3):WG1 規格基準改定案
- 資料19-3-3-1(4):WG1 関係 規格基準改定状況表(070905)
- 資料19-3-3-2:WG2 関係
- 資料19-3-3-3:WG3 関係 第3回ワーキング議事録
- 資料19-3-3-4(1):平成19年度第2回WG4力学特性(土と岩)議事録
- 資料19-3-3-4(2):WG4 名簿
- 資料19-3-3-4(3):WG4 規格・基準の改定案件
- 資料19-3-3-5:WG5 関係
- 資料19-3-3-6(1):WG6 関係基準公示文案
- 資料19-3-3-6(2):「ジオテキスタイルの開孔径試験方法湿式開孔径試験」改定案
- 資料19-3-3-6(3):「ジオテキスタイルの開孔径試験方法湿式開孔径試験」変更点比較表
- 資料19-3-3-6(4):「ジオテキスタイルおよびその関連製品の垂直方向透水性能試験」改定案
- 資料19-3-3-6(5):「ジオテキスタイルおよびその関連製品の垂直方向透水性能試験」変更点比較表
- 資料19-3-3-6(6):「ジオテキスタイルおよびその関連製品の面内方向通水性能試験」改定案
- 資料19-3-3-6(7):「ジオテキスタイルおよびその関連製品の面内方向通水性能試験」変更点比較表

資料 19-3-3-6(8):「土とジオシンセティックスの一面せん断試験」改定案
資料 19-3-3-6(9):「土とジオシンセティックスの一面せん断試験」変更点比較表
資料 19-3-3-6(10):「ジオシンセティックスの土中引抜き試験」改定案
資料 19-3-3-6(11):「ジオシンセティックスの土中引抜き試験」変更点比較表
資料 19-3-3-7(1):第 5 回 WG7 岩盤不連続面の室内せん断試験方法基準化 WG 議事録
資料 19-3-3-7(2):今後の WG7 の活動計画
資料 19-3-3-7(3):「岩盤不連続面の一面せん断試験方法」最終版
資料 19-3-4:平成 19 年度第 2 回基準部会議事録(案)
資料 19-3-5:室内試験規格・基準委員会および各 WG の予算執行状況一覧表

議 題:

【審議事項】

(1) ベンダーエレメント試験方法基準化検討 WG について

一部の研究者のみにしか普及していないようであるが、試験方法を統一して欲しいというニーズはある。また、国際一斉試験を行うなど、基準化のための準備も整っている。基準化検討 WG で基準化の必要性を検討してもらうことには意義がある。「資料 19-3-2-2(2):規格・基準に関する細則」で求められている条件も満たしていると判断した。次回基準部会に基準化検討 WG の設立を上申することとした。

(2) 基準の見直し・改正について

各 WG の修正点の確認を行った。修正箇所詳細は、資料を参照。

WG1:

JIS A 1201:ふるいの引用規格変更による改正(JIS Z 8801-1 試験用ふるい - 第 1 部:金属製網ふるい)

JIS A 1202:「規格」を「日本工業規格」とする改正

JIS A 1203:「規格」を「日本工業規格」とする改正

JIS A 1204:改正(飽和溶液という言葉削除)

JIS A 1205:引用規格名変更による改正

JIS A 1209:「吊り」を「つり」とする改正

JIS A 1224:ふるいの引用規格変更による改正

JIS A 1225:「吊り」を「つり」とする改正

その他:JIS 改正の場合は書式も「JIS Z 8301:2005 規格票の様式及び作成方法」に合わせる。JGS 基準は正誤表で対応。「試験器具」と「試験用具」という言葉を統一する。

WG2:

新規制定基準案「土の有効陽イオン交換要領の測定方法」が示された。早急に会告文も準備する必要がある。9 月中に、幹事と担当委員まで本基準案に対する意見を連絡する。新規基準作成のため、和田信一郎氏(九州大学大学院農学研究院)をメンバーに追加することを認めた。

JIS A 1226:ふるいの引用規格変更による改正

その他:JGS 基準は正誤表で対応。

WG3:

JIS A 1218: 透水係数の単位を m/s に変更する検討を行う。改正予定。

JIS A 1217: 供試体の成形方法変更による改正

JIS A 1227: 透水係数を算出することによる改正

WG4:

土と岩の基準を同じ章の中に混ぜられないか検討する。一面せん断試験に関してはできると WG7 より意見が出された。

JIS A 1216: 引用規格番号の誤りによる改正

その他: JGS 基準は正誤表で対応。

WG5:

修正点が理解できないところもあったので、次回説明していただく。

JIS A 1210: ふるいの引用規格変更による改正

JIS A 1228: ふるいの引用規格変更による改正

JIS A 1211: ふるいの引用規格変更による改正

その他: JGS 基準は基本的には正誤表で対応する予定であるが、詳細は次回検討。

WG6:

JGS 0911, JGS 0931, JGS 0932, JGS 0941 の改正案として、6 つの JGS 基準が示された。「JIS Z 8301:2005 規格票の様式及び作成方法」にあわせた書式に修正していただく。9 月中旬に、幹事と担当委員まで本基準案に対する意見を連絡する。

WG7:

解説、英訳を 1 月には委員会に提出したいと考えている。英訳のネイティブチェックの代金を ISO 国内委員会の資金から出せるか、基準部会に諮る。基準案の公示が終了した後に、「JIS Z 8301:2005 規格票の様式及び作成方法」にあわせた書式に修正することを考えている。

WG8:

「第 1 章 概説」、「第 2 章 高有機質土」、「第 3 章 火山灰質細粒土(関東ローム等)」、「第 4 章 火山灰質粗粒土(シラス等)」、「第 5 章 風化残積土(まさ土等)」の目次の中の小項目を検討中である。

(3) データシートについて

岩関係のデータシートに関して、即座に必要性は感じられないものの、あった方が親切であろうという意見が出された。今回の改訂には間に合わないが、次回改訂までには、データシートを作成することとした。

(4) その他 (ISO, 他国の基準の動向など)

時間の関係上、解説にかかわることは今回審議しなかった。次回、解説の方針等でわからないところを審議する。

【報告事項】

(1) 基準部会の報告

平成 19 年度第 2 回基準部会の議事録のなかで、室内試験規格・基準委員会と関係のあるものが説明された。

(2) JIS Z 8301:2005 への対応

書式だけの修正はせず、改正を行うときに書式も一緒に修正する方針が確認された。

(3) WG の活動報告(開催状況,メンバー確認,HP 利用状況など)

WG の進捗状況が報告された。

(4) 予算の執行状況

予算の執行状況を確認した。各 WG は、一般会計と刊行事業特別会計の予算内で活動するように要請があった。

(5) その他(次回の委員会開催日など)

次回委員会は、10/29(月)の 13:00 から 17:30 とする。次回までに(開催日の 1 週間前までには)、各 WG は、目次案と規格・基準の改正・修正案(公示文、正誤表、旧規格・基準を赤字で修正したもの、新規格・基準)を提出する。公示文の作成方針については、幹事会から連絡する。